５章　安全対策の実施

１　熱中症対策

参加チーム責任者は、熱中症対策に十分気を配り、踊り子にも周知徹底をお願いします。

※　猛暑により、熱中症で救急搬送される人（半数以上は高齢者）が全国で相次いでいます。

※　熱中症は暑さや運動で体に熱が溜まり、体温が上昇することが原因です。

※　特に、炎天下での踊りでは「熱疲労」と「熱射病」に注意が必要です。

（１）熱疲労

症状：脱水によるもので、脱力感、体がだるい、めまい、頭痛、吐き気などの症状がみられる。
　　体温上昇は著しくない。

対策：０．２％の食塩水またはスポーツドリンクを補給する。

（２）熱射病

症状：異常な体温の上昇（４０度以上）で、意識障害（応答が鈍い、言動がおかしい、意識がない等）がおこり、臓器障害の併発から死亡率も高い。

対策：すぐに救急車を手配し、応急処置を施す。

汗からは水分と同時に塩分も失われます。スポーツドリンクなど、水分をこまめに補給するよう心がけてください。

熱中症などにて病院で治療を受けることに備え、
参加者（踊り子およびチームスタッフ）に健康保険証のコピーを所持させてください。

２　疾病対策

インフルエンザ等の感染を防ぐため、踊り子、チームスタッフは手洗い、うがいを励行し、必要ならばマスクを着用してください。

また、夏場の衛生管理について注意を払い、食中毒の予防にも努めてください。

３　落雷事故防止対策

雷鳴が聞こえた時点で、よさこい祭振興会事務局は、関係者を集め、演舞の継続か休止を判断する協議を行います。演舞休止（一時解散）が決定された場合は、速やかに、追手筋会場で休止アナウンスを行い、会場スタッフが踊り子（地方車はそのままの位置）、観客を避難場所に誘導するとともに、各会場の責任者には、「どこいこサービス」等を使用して連絡します。

同様に、各会場の責任者が事故防止のため、演舞休止の判断を行った場合、チーム責任者に連絡し踊り子や観客の避難誘導を行って演舞を中断しますので、会場スタッフの指示に従ってください。

なお、天候回復後は、再度協議し、踊りの再開決定の場合は各会場の責任者に「どこいこサービス」等を利用して連絡するとともに、踊り子・観客を誘導し演舞を再開しますが、その場合中断したチームから再開しますので、踊りの出番については、そのまま後ろにスライドすることとなります。

その場合、追手筋会場は、昼の部を延長し、夜の部の時間に入っても、昼の部の最後のチームまで踊ることとします。しかし、夜の部は延長できないため、出番変更により踊れないチームが生じることが想定されます。その告知についても「どこいこサービス」等にて行いますが、遅延によるチームの救済は行いません。

4　落雷事故防止対策（流れ）　８月１０日・１１日

5　追手筋会場緊急避難経路（図）　８月１０日・１１日

８月１０日・１１日　追手筋会場において、
雷により危険と判断した時は、踊りを一旦中断しますので、
踊り子・観客の皆さんは、スタッフの指示に従い、
下図の追手前高等学校（体育館）、オーテピア１階（駐輪場・駐車場）、
アーケード内に避難してください。

- 追手筋会場の昼の部に、雷により踊りを中断した後、天候が回復した場合、中断したチームより再開します。
- この場合、昼の部を延長し、夜の部の時間に入っても昼の部の最後のチームまで踊ることとします。
- しかし、夜の部は延長できないため、スケジュールの変更により踊れないチームが生じることが想定されますが、遅延によるチームへの救済は行いません。